

海援隊士 高松太郎展

高知県立坂本龍馬記念館

開館30周年企画展



高松太郎 明治2年撮影(安田町教育委員会)

令和3年 4月17日(土)～6月22日(火) 会期中無休

◆関連イベント

高松太郎のふるさと・安田町を訪ねる 学芸員と行くバスツアー
5月23日(日) 定員25名(先着順) ※受付は4月24日(土)から
詳細は別途チラシ、当館HP等でお知らせします

◆担当学芸員による展示解説

4月24日(土)、6月19日(土) いずれも14:00～
申し込み不要 直接企画展示室にお越しください

無料
(要観覧料)



高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

〒781-0262 高知市浦戸城山830
TEL 088-841-0001 FAX 088-841-0015
HP <https://ryoma-kinenkan.jp> E-mail ryoma@ryoma-kinenkan.jp

海援隊士・高松太郎展

龍馬の甥である高松太郎(坂本直)は、幕末から龍馬と行動を共にし、海援隊士となる。維新後は新政府の役職に就き、維新の功績によって郷土坂本家とは別に一家を立てることを許された坂本龍馬家を継ぐことになった。龍馬の身内でありながら、残された資料が極めて少なく、詳細が不明な人物であるが、平成29年度に關係資料108点の寄贈を受け、特に維新後の足取りが明らかになりつつある。箱館裁判所(箱館府)での勤務、海援隊関係者との交流、弟坂本直寛との關係などを、寄贈された坂本直關係資料を中心に読み解き、直を取り巻く歴史的な状況とともに紹介する。



●坂本家の人々 明治31年(当館)
直寛一家が北海道へ移住する際に撮影。後列、右から2番目が直、3番目が弟の直寛。



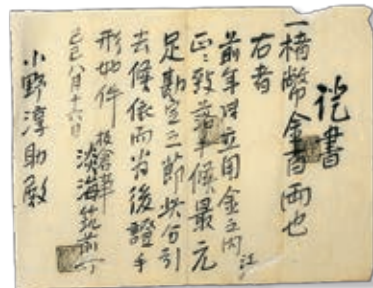
●「小栗流和兵法七箇条」高松栄太郎(太郎)宛 安政6年(安田町教育委員会) 龍馬の師と同じ日根野弁治から受けた小栗流免状



●高松太郎ほか宛廣井磐之助書簡 文久3年推定12月6日(当館) 龍馬や太郎らの助けて父の仇討ちを遂げた廣井磐之助が土佐に帰って書いた手紙

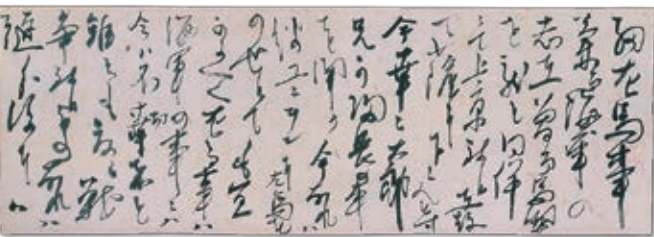


●小野淳輔(高松太郎)宛長岡謙吉書簡 明治4年1月15日(当館) 元海援隊士・長岡謙吉からの手紙



●小野淳輔(高松太郎)宛板倉槐堂証書 明治2年8月16日(当館)

板倉槐堂は龍馬暗殺現場にあった「血染めの掛軸」の絵の作者。借入金の一部を返済したことの受取証。



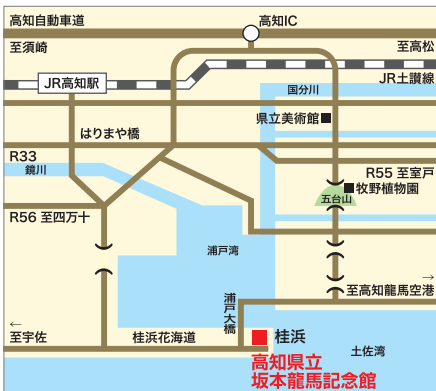
●小野淳輔(高松太郎)宛 R.ガルトネル英文書簡 1868年10月27日(当館)
箱館裁判所で外交を担当していた時代の文書。
R.ガルトネルはプロシアの商人。



●坂本直(高松太郎)宛坂本直寛書簡 明治12年推定8月18日(当館)
弟からの手紙。叔母(乙女)の容体が書かれている。



●高松太郎宛坂本龍馬書簡 慶応2年3月8日(竹村脩氏)
土佐の同志・細川左馬之助(池内蔵太)をユニオン号に乗り組ませる相談



ACCESS

- JR高知駅からさでん交通バス「桂浜」行、「龍馬記念館前」下車 徒歩約2分
- 高知駅発着で龍馬記念館などを巡るバス「MY遊バス」(一日乗り放題)もお得です。毎日運行
- 車・タクシー利用の場合、JR高知駅から約35分、高知空港から約25分、高知インターから約25分
- 駐車場…普通車42台(うち障害者用駐車場2台) バス4台

開館時間/9時~17時(最終入館16時30分)
観覧料/一般700円(20名以上の団体560円)

※高校生以下、高知県または高知市の長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名は無料

主催/高知県立坂本龍馬記念館(公益財団法人高知県文化財団)

後援/高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、共同通信社高知支局、時事通信社高知支局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSS高知さんさんテレビ、NHK高知放送局、エフエム高知

高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

〒781-0262 高知市浦戸城山830 TEL 088-841-0001 FAX 088-841-0015
HP▶<https://ryoma-kinenkan.jp> E-mail▶ryoma@ryoma-kinenkan.jp